

開催レポート

あさがや
まちづくり
セッション

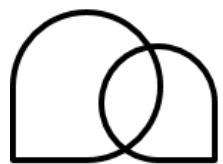
第1回

令和6年6月9日（日）

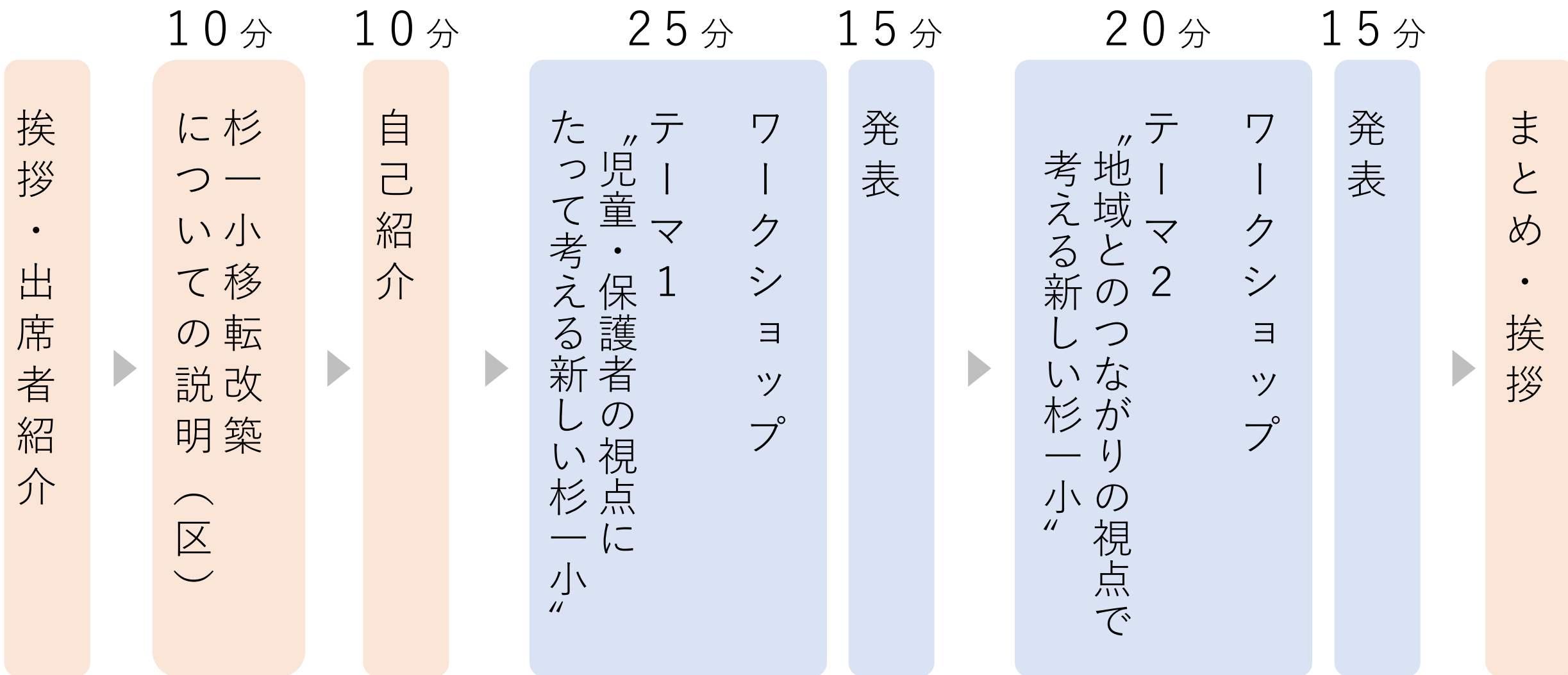
14：00～16：15

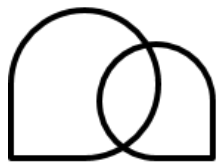
杉並区役所第5・6会議室

参加者数：24人



開催当日の流れ





出席者

タカグチ

高口

ヒロト

洋人

学識経験者・早稲田大学教授

シバタ

柴田

マサミツ

真光

司会

コバヤシ

小林

コウジ

幸司

ファシリテーター・杉並建築会

ハヤシ

林

ミキ

美樹

ファシリテーター・杉並建築会

トシミツ

利光

オサム

収

ファシリテーター・杉並建築会

ヤマダ

山田

キヨシ

清

ファシリテーター・杉並建築会

ノグチ

野口

ゲンジ

郡司

アマノ

天野

オニザワ

鬼澤

タカヤマ

高山

ヤスカワ

安川

オカモト

岡本

ミヤザワ

宮澤

カズキ

知希

ヨウスケ

洋介

マサシ

雅史

カツヤ

勝也

ヤスシ

靖

タカヒロ

卓弘

トモヒコ

智彦

ミハル

美晴

杉並区都市整備部
まちづくり担当部長

拠点整備担当課長

係長

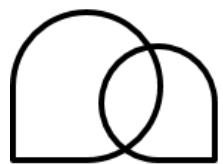
担当

杉並区教育委員会事務局
学校整備・支援担当部長

学校整備課長

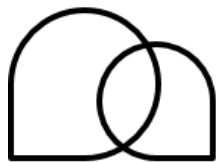
係長

担当



開場の様子



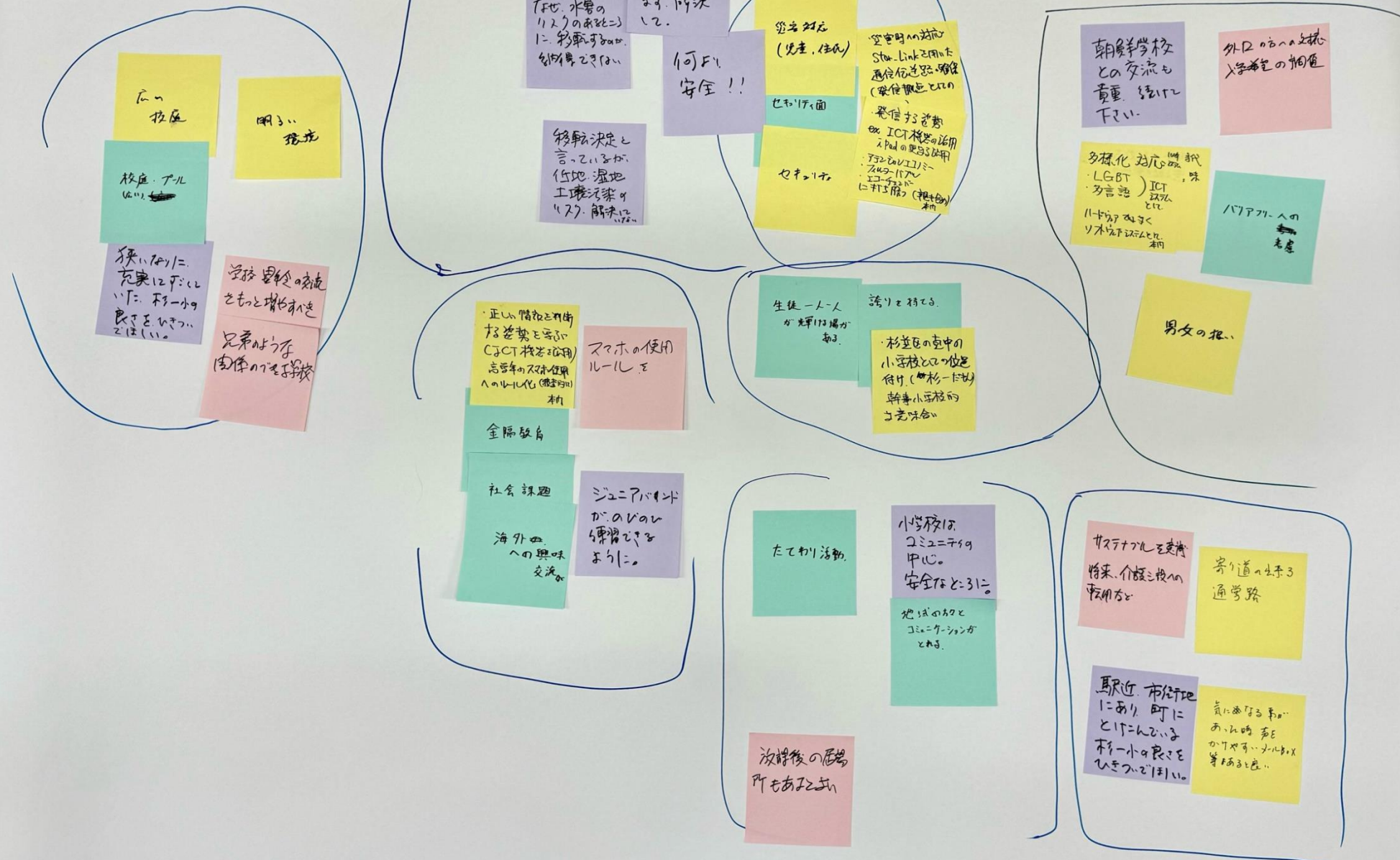


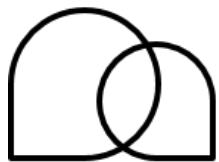
A 班 - 1



テーマ 1 :

児童・保護者の視点にたって考える新しい杉一小





A 班 - 2



テーマ2:

地域とのつながりの視点で考える新しい杉一小

杉一の歴史
杉立と金谷の歴史
杉立と金谷の歴史
杉立と金谷の歴史

高尾山
山頂
山頂
山頂

地域の商店
地域の商店
地域の商店
地域の商店

子供が子供と育つ時代
(人生100年時代に向けて)
親子の生涯教育

地域の商店
地域の商店
地域の商店
地域の商店

21世紀
地域に
関して

セクター
セクター
セクター
セクター

地域が育ち
地域が育ち
地域が育ち
地域が育ち

地域の商店
地域の商店
地域の商店
地域の商店

子供が子供と育つ時代
(人生100年時代に向けて)
親子の生涯教育

子供が子供と育つ時代
(人生100年時代に向けて)
親子の生涯教育

緑再生
緑再生
緑再生
緑再生

緑再生
緑再生
緑再生
緑再生

病室の窓
病室の窓
病室の窓
病室の窓

住宅地に新
設する学校は
近隣の
苦情が多
くある

隣に家を
建てると
子供が
可哀なり
である

近隣の
グループ
教師が
子供に
対応

これは「大丈夫」と
言うか、教師に
任せ、職員
に任せ、保護者に
任せ

多岐にわたる声
を聞き、それら
を統合し、
人間的関係
を築く

子どもの声を
もつと聞いて、
環境に

杉立の歴史
(1945-1955)

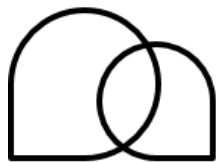
文士の声



児童・保護者の視点にたって考える新しい杉一小

地域とのつながりの視点で考える新しい杉一小





C 班



テーマ1：
児童・保護者の視点にたって考える新しい杉一小

1にぎわい
鬼木力

施設と
しての
認知度の
高さ

安心して
通える
地域の人の
目の届くところ

行きたくなる学校
それ以外、広い門
開放感
うらやま

にぎわいをつくる。
一等地の学校
環境のよさ

フレ
行きたく
なる!!
友

ICT

IT設備の充実
タブレットなど

ITの充実
タブレット授業
設備
林 田松

ICT教育
iPadなどで授業
パソコンも

安全安心

避難場所
地震、火災
大杉

地震等の自然
災害に対する安全
の確保

地震対策
地震に強い校舎

防災広場
「ふけ地」として
使う

汚染
汚染
汚染と対策
に力

薬物汚染
・病院付近で
よく見られる

ヒートマップ
として機能
が、バリエーションが
少ない。

川底に移転
・低い。
・地盤が悪い

安心に通う環境
防災、避難
の機会
を設ける

安全と
コミュニティの両立

文化

フットパス
中杉通り
用の日に安心に
歩ける道

小学校機能
の一部(ホール等)
をA地区に移転
する

文学館を
建てる
文士村のゆかりを
伝える

みどり

地下水利用
コジエネに使う

ビオトープなど
しごき自然体験

林の小学校
けやき屋敷で失
われた緑を
回復する



テーマ2：
地域とのつながりの視点で考える新しい杉一小

つながり

コミュニティ活動
・アソシエーション
・同世代の学校

お祭り等
地域住民との関わりを
持つ機会をイベント

地域集会所の近くに
たれにも集えるような
場所

商店街
のつながり
(マルシェ等)

イベントでの
関わりも大事

地域治水
グリーンインフラ
調湿地として
使えるか?

治水
治水
治水
治水
治水
治水
治水
治水

蓄電池
さる日間の
大型のもの
を入れる。
S&B

初級せ成用
へ、同知を
言訳集、本誌
・読者上り

ハード面
ソフト面
でも対応

音料集と同知性
の両立
へいこ国産のやり

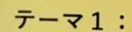
グローバル

地域に住む
外国人との関わり
異文化
コミュニケーション
を築く

外国人の住み
(分岐の場)
、わかりやす
多言語

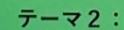


D 班



テーマ 1 :

児童・保護者の視点にたって考える新しい杉一小



テーマ2：

地域とのつながりの視点で考える新しい杉一小

(兎)

生物が
やってくる。
(昆虫、カエル、)
草花も

木のぬくもりが
感じられる場所

学校を効率的に
利用しようとする
はわかるが「学校
生活は子どもにと
っては私生活と席
を分けるという

校歌が
阿佐谷には、
かっこいい！
児童の立場

世界のモデル
に於けるデモン
ストラクション

地蔵にゆたこんの
専門家がふくは
すけ もんがの
学習に参照して。
子どもたちも「地蔵
で」生きていると実感

ビオトープを
つくろう。

遊びの延長の
ような形で"
学ぶ場所"PT

地域の
場町

2023.9.15
2-7-9-

1211C
 1211C
 1211C

7"4-シ
イン7ラ

運動場
正広く
100m 直線

多様性
受け入れの場
(国籍、LGBTQ)

どんな人も
自分らしく

朱はの
おやみどこ？
もとのための55555555

どの子も
自分らしく
学校内の「ことば」
を「やさしく」する
ふりかへ。中国語・韓国語・英語

보건실
Health Room
医务室, 보건실

文化・国籍・
ことば(言語)
で差別のない学校

学校の校内
ことは"を
「やさしく」

やさしい日本語
英語
中国語・韓国語

防災
緊急時に太陽光
がなくとも
電力をつくる

太陽光以外の発電方法が
あると安心。
→ 雨水を使った水力発電
↓
世界に誇れる小学校
給水装置の設置 (2008年度)

水力發電
(風水)
風力發電

学びの
プラットフォーム

字金

電力がなくて
水が冷たい
井戸

雨水の循環
・地中へ浸透
・空へ蒸散

身近にはある
環境教育

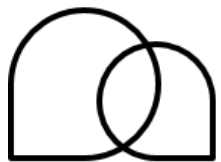
20-177

世或の人の
休みの
プラットフォーム

FM 44-1

ふたりの
おしりも
高レベル

安全面



いただいたご意見

* 全 班 で 貼 ら れ た 付 箋 を 文 字 化 し て い ま す 。

杉並区をリードする小学校になってほしい

世界のモデルになるデザイン等一流に

一番の小学校

商店街との関係

あさがお活動の継続(駅近)、地元商店街との社会勉強提案

催し物に小学校を取り込む(七夕まつり、ジャズフェスティバル)

お祭り等 地域住民との関わりを持てる様なイベント、イベントでの関わり的大事

商店街とのつながり（フィールドワーク等）地域に開かれたイベント、朝市やマルシェ、ヨガ、地域の健康を守る

子供が子供を育てる時代(人生100年時代ということ)、親子の生涯教育

地域が児童・保護者(共働きもあるので)を支える、PTAでなくSCA(スクールコミュニティアソシエーション)

児童がやりたいことを地域でできるように

コミュニティ活動の拠点：アソシエーションに開かれた学校

プール、音楽室など地域に開いて、区民体育館のようにだれでも使えるような場所

地域で何かあったら使いたい、集まりたい、使わせてもらいたい

卒業生が杉一にあいさつに来るような良さ

誇りを持てる

学校先生と地域の懇談会が出来ると良い

壁を高くするのは、子どもが可哀そうすぎる

子どもの声をもっと聞いていける環境に

緑再生

生き物がやってくる(昆虫、カエル…)草花も

ビオトープをつくろう！身近なテーマで環境教育

森の小学校、ビオトープなど（やご救出作戦）

地域治水、グリーンインフラ 調整池として使えないか

杉並の芸術、文士のまち

能・狂言の経験

文化館を建てる

文士村のゆかりを伝える

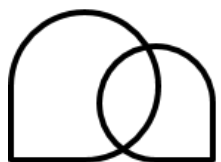
小学校はコミュニティの中心。安全なところに。

病院が近いこともあり、子ども達の声や音楽がうるさいと言わせたくないような近隣

等の関係、人間関係を大事にして欲しい

近隣からのクレーム対応に教師がふり回される、心配

広い校庭、プールの設置、明るい環境、24時間明るい

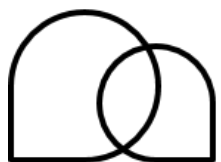


いただいたご意見

* 全 班 で 貼 ら れ た 付 箋 を 文 字 化 し て い ま す 。

ウェルネスに配慮した教室 ex)サーカディアン照明 光・風・緑を感じられる
ぶたいを作る
狭いなりに充実してすごしていた、駅近市街地にあり町にとけこんでいる杉一小
の良さをひきついでほしい
学校異年齢の交流をもっと増やし、兄弟のような関係のできる学校
低地湿地軟弱地盤土壌汚染をまず解決して
川底に移転(低い・地盤が悪い)
安全性の担保、軟弱地盤、汚染地、浸水の可能性
水害に強い施設に
薬物汚染対策
ジュニアバンドやクラブがのびのび練習できるように
災害対応
電力がなくても水をあげられる井戸
防災 緊急時に太陽光が無くても電力を作ることができる(水力(雨水)発電、風力
発電)
防災拠点、蓄電池（3日間の大型：ZEB）やかまどベンチ、地盤の強化（子ども
のためにも）
災害時の避難場所としての安全確保、プライバシー空間が守られる
地震等の自然災害に対する安全性の確保、地震対策
防災広場「火よけ地」として使う
どの子も自分らしく

学校内の「ことば」を「やさしく」する
セキュリティ面
Star、Linkを開いた通信伝送路の確保(発信拠点としての)
発信する姿勢(ex ICT機器の活用、iPadの更なる活用)
アテンションエコノミー、フィルターバブル、エコーチェンバーに打ち勝つ(親も含め)
正しい情報を判断する姿勢を学ぶ(ICT機器を活用)
高学年のスマホ使用へのルール化
金融教育
社会課題
海外への興味交流
生徒一人一人が輝ける場がある
放課後の居場所もあるとよい
多様化対応 時代、味、男女の違い
LGBT・多言語…ICTシステムとして
外国の方への対応入学希望の調査
バリアフリーへの考慮
サステナブルを意識
将来、介護使役への転用など
気になる事があった時声をかけやすいメールBOX等があると良い
先生のお休みどころ
先生のための保健室



いただいたご意見 * 全班で貼られた付箋を文字化しています。

木のぬくもりが感じられる場所

学校は子どもにとってここは私の教室座席ですと思ってほしい

遊びの延長のような形で学べる場所

校歌が阿佐谷ならでは、かっこいい

ふりがな・中国語・韓国語・英語 例：ほけんしつ 保健室 Health Room 医
務室 보건실

地域に住む外国人との関わり（異文化コミュニケーションにもつながる）、分か
りやすい日本語、多言語

地域の場所、地域の人々の休みのプラットフォーム

ワーカブル

一息つけるストリート

PTA・親のみが作る学校ではなく、地域の人、教職員の意見も取り入れながら作
りあげる学校

地域にいる専門家が学習に参加し、それを日常的なしくみにしていく

いろんな職業体験（お話）を地域から提供できる仕組み、小学生側から何か提供
してもらえる（give&teke）

雨水の循環(地中浸透・空中蒸散)

地下水利用：コジェネに使う

ミニ放送局を作る

FM杉一(FM Sugiiichiなど、4か国語表記)

子どもたちから社会参加

災害時の時報や対策、録画・録音を子どもたちにも取り組んでもらう

運動会のショーアップ、ぶたいの出し物を高いレベルで

学びのプラットフォーム

教育環境の質の確保、住宅地での騒音問題

音対策と開放性の両立

移転地域周辺への周知と音対策の説得と納得させること

教育の環境改善、エアコン

エレベーターの設置、病院と小学校の間に木々を植え学べる環境の整備

保護者から（外から）見える

駐車場、駐輪場の整備

親同士の交流の場

教職員もワクワクできる施設、児童もワクワクできる施設

児童が思い切り遊べる

課題発見力を養えるカリキュラム

同業種が集まって意見交換できる場、大人同士の学びの場

大人が集まる場になることが地域からのクレーム消滅に寄与するかも

教室以外の学びの場がある

消防施設との活動

施設としての認知度の高さ

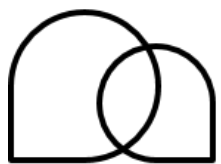
行きたくなる学校、広くきれい、開放感、うきうき、賑わいを作る

安心して通える学校

防災・建て替えの機会 タイミング

フットパス：中杉通りまで雨の日に安心して歩ける道

小学校機能の一部（ホール等）をA街区に移転する



参加募集時にいただいたご意見

○杉一小の歴史を引き継ぎ、子どもたちが地域の住民と一緒に育つ学校作り、住民にとっては防災拠点の学校作りを第一の課題として取り組んでほしい。

○集団生活が苦手な児童や不登校の児童が安心して生活出来る環境を保健室ではなくフリースペースを充実させてほしい。

○杉一小が、周囲の住民から無条件に歓迎される存在であり続けること
杉一小の生徒が、安全面の脅威にさらされることのない環境条件を徹底すること
杉一小がナンバーズスクール1番として、区を代表する小学校であり続けること

○なぜ、1回目のテーマが「杉並第一小学校の移転改築に向けた目指す学校像の提案ほか」なのですか？杉一小改築は、教育の問題、児童の問題であるはずなのに、なぜ「まちづくり」の最優先課題のように扱われるのですか？

○都市は地域住民があってこそ成り立ちます。地域住民がいなければ、都市は成り立ちません。ですので、阿佐ヶ谷においては地域の皆さんが望まれる形に沿うのが、今後の杉並区の都市計画とヴィジョンに最も活かされるのではないのでしょうか。また、あさがやまちづくりセッションを開催されるにあたって、要約筆記や手話通訳をご用意されるのは、杉並区への区民からの信頼を得ると感じます。

○太陽光発電やコジェネを使ったゼロエネルギービルディング（ZEB）を目指し、大型蓄電池をもって阿佐ヶ谷駅北東地区の3日分の消費電力を支えるようなエネルギーマネジメント機能も持った、次世代型建築のモデルとなる校舎建築としてほしい。また想定雨量を超えた水害の際にも災害救済所として機能し得るように万全な止水対策、子どもたちが安全にアクセス・避難できるように中杉通りレベルと高度的にフラットなフットパスで結ぶなどの土木対策をしてほしい。また森に囲まれた校庭にして、屋上緑化も積極的に行い、「森の学校」と呼ばれるような小学校に再生してほしい。また敷地内に社会教育の場として小さな「阿佐ヶ谷文学館」をつくり、そこに、かつて小学校が中杉通り沿いにあったことや、けやき屋敷があったこと、近くに文人たちが住んでいたこと（例えばその本を並べるなど）など、歴史的記憶を伝えるような資料展示をしてほしい。さらに（TX柏の葉キャンパス駅前をモデルにして）、AIを使った防犯・防災システム（カメラ）を導入するなど、DXまちづくりの先進事例としてほしい。

○小学校としてだけではなく、将来的に、同じ建物施設を「複合施設」としても活用できるような施設づくりをしていただけたらと思っています。将来の人口を見込むことは難しいかもしれませんが、空いた教室は他の用途にも利活用できたり、図書館や体育館なども、小学校としてだけではなく、地域で、区内で、活用できたらよいと思いますが、いかがでしょうか。（学校施設としての規制等の専門的なことまでは承知していませんが、このようにできたら、というイメージを持っています）

○ショッピングモールのようなものができるとよい

○学習環境の向上に繋がることを期待します。

- ・校舎に入るには生徒手帳を機械にかざしてから(安全面)
- ・心地よいトイレや手洗い(清潔さ使い易さ快適さ、綺麗で明るい水周りスペース)
- ・施設の耐震化、エコ化(災害時、環境教育)
- 1 耐震化等の安全性と教育環境の向上 2 安心な空間 3 自然光で明るく
- 4 過ごしやすく快適な室内環境 5 あたたかみと潤いのある空間に 6 より多様な学習空間を
- 7 誰もが足を運ぶ地域の拠点 8 空間の可能性を広げる 9 心安らぐ場所を 10地域の顔として

“確かな学力”

- ・複数のクラスでフロアをのびやかに使う・教科学習の魅力を高める・いつでも本が手に取れる

“豊かな心”

- ・子供達を気持ちよく迎え入れる(元気に1日を過ごす為の昇降口やアプローチ空間の工夫)
- ・先生がもっと身近に(機能的開放的な職員室)

“健やかな体”

- ・校内どこでも気軽に体力作り

環境との関わり

- ・暑くない、眩しくない、風が通るさわやかな教室 ・豊かな緑に囲まれながら・地域性を活かしたデザイン

地域との関わり

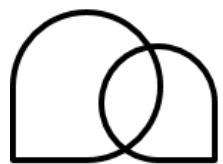
- ・地域みんなで子どもを守る ・何かができる、みんなに会える・体を動かしに学校へ行こう

○運動場が広いとのびのび身体を動かさせていいと思います。芝生がある場所や、植物や生き物の観察ができる環境もあるといいなと思いました。

○阿佐ヶ谷駅周辺は、昆虫やカエルなど身近な生き物がくらせる場所が少ない。特に水辺の生き物は、善福寺川公園まだ行っても護岸されており、観察の機会はほとんどないのでは。敷地内に、ビオトープなどをつくり、しっかりと維持管理できる体制があると良いと思います。できれば、時間を決めて解放し、近隣の人々も観察に立ち寄れると嬉しいです。

○「ふるさと納税」により 杉並区の税収が流出しています。

小学校、中学校の改築や耐震化に使える 費用が流出しています。
財源や税収確保の観点から、ふるさと納税「返礼品」の強化が重要ではないでしょうか？



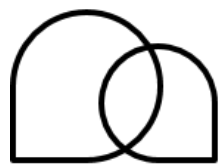
学識経験者コメント（高口洋人先生より）

長時間にわたるワークショップお疲れ様でした。今日各班から出てきたアイデアは、今日本が直面している、あるいは学校教育の現場が直面している問題について、小さなものから大きなものまで、我がこととして現れており、その思いを区役所の人たちに伝えるいい機会になったのではないかと思います。色々なテーマが出ていましたが、やはり「杉並第一」であり、歴史がある杉並のモデル校として、子供たちが誇れるような学校になってほしいと思います。ある班からは、杉並一ではなく世界でナンバーワンの学校を作ろうという案も出たと思いますが、今日ここで出た意見が解決・実現できれば、世界ナンバーワンも夢ではないと思います。学校の開放と安全という話も出ました。学校の先生も大変ですので、学校の中に専門家や地域の方々に入って頂き、一緒に善くしてこうという話ですが、一方では子供の安全も守らなければならない。この開放と安全の両立をどうするのかは、ソフト上の課題のように見えますが、建物としても貢献、出来ることはたくさんあります。

多様性の話も出ました。外国人の子どもたちも、どんどん増えていくでしょうし、日本人だからといって単純ではありません。例えば学校不登校になる原因は人間関係やいじめが原因のように思われますが、実は学校の匂いが合わない、音や光がうるさすぎる、眩しすぎるといった環境が原因のことも多いそうです。建物が原因で学校に来られない子がたくさんいる。そのような子たちもいききとできる学校、居場所がある学校が求められているわけですが、これも建築としての工夫で、もっと改善はできる問題です。

学校の中にこういうものも一緒にあればという話で、学童を併設するという話はすでに上がっていますが、阿佐ヶ谷らしい文学館をいれたらどうか、ミニFM局をまかせてみたら、という面白い案も出ていました。また、教育におけるデジタル活用への期待も伝わったのではないかと思います。

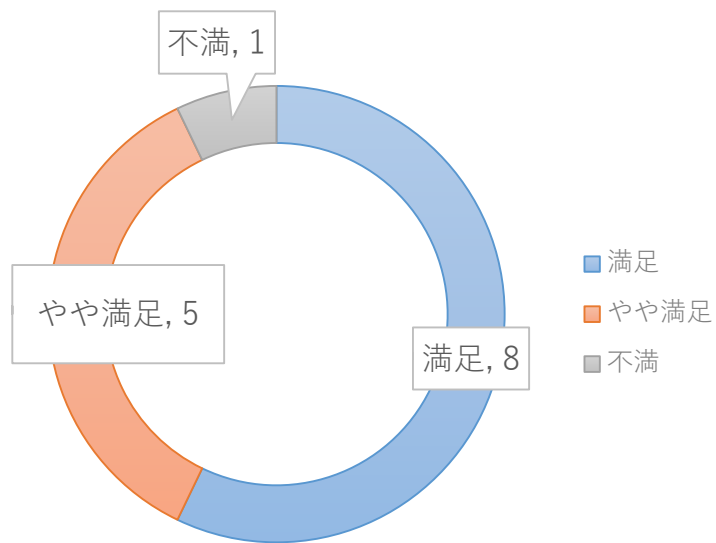
これからも意見を集めるタイミングがあると思いますので、今日の意見を含め、そういった意見がどのように実際の計画に活かされるのか、見届けていただければと思います。



開催後のアンケート

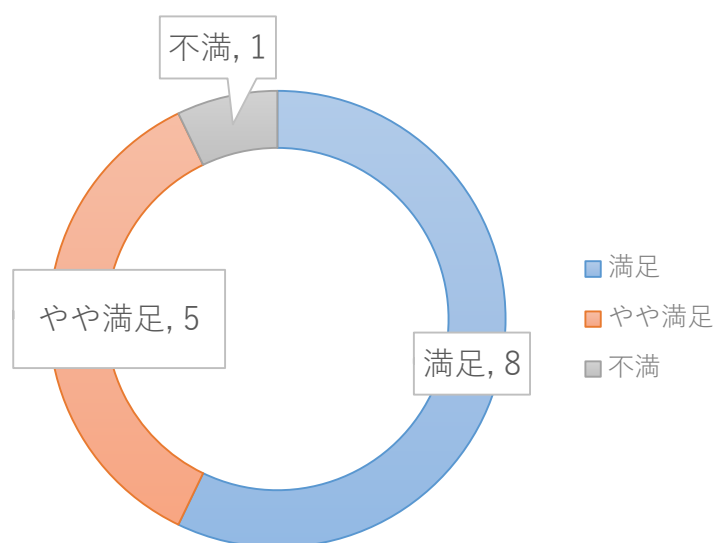
Q1.

グループワークについて



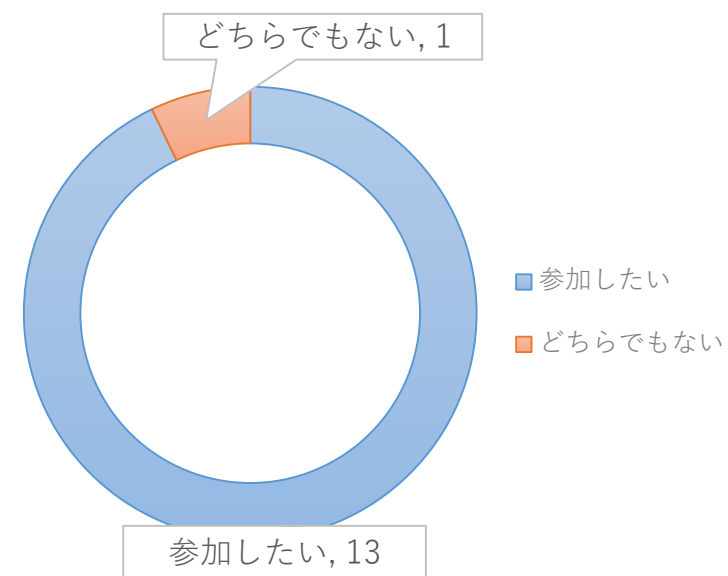
Q2.

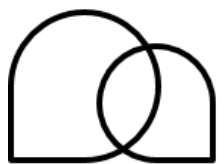
全体を通して、どの程度満足
いただきましたでしょうか。



Q3.

今後開催予定の、
あさがやまちづくりセッションに
参加したいと思いますか。





開催後のアンケート2

○設計や学校の学習にも参加したり、一緒に考えていける、地域で生きる学校になったらいね。地域で子ども達が見守りできる、そんな学校にしたい。

○20～30代女性の杉一小学区で子育てをされている方も複数、参加されている「あさがやまちづくりセッション」でした。なので、杉並区と区民の対話の場として、非常に内容が濃く深くなってよかったと感じました。また、杉並建築会の建築士の方がファシリテーターとして参加されていたので、現実的に杉一小の基本設計に生かすことができるような提案・アイデアがたくさん出たと考えます。ぜひとも、具体的に「あさがやまちづくりセッション」で提案された区民の声を杉一小の基本設計に取り入れてください。お願いいたします。

○もともと現地建替との比較論が必要。住民（区民）との合意形成が最も重要です。これから何十年も地域に愛される施設とするためには、地域の理解が必要だからです。ゲームではなくて、アリーナで議論しましょう。

○様々な意見が出て興味深かった。地域と繋がりのある素敵な小学校になることを期待します！

○100年後の阿佐ヶ谷も生き生きとした街であってほしい。

○意識が高い方が多くてびっくりしました。今後共にこのようなチャンスを作っていただいて、住民の意見を取り入れて下さることを期待したいと思います。今後とも区民のために頑張ってください。

○話し合いがしやすいようよく工夫されていて、良かったです。参加者の選定についてはより意図を持ってしてみると、また違った意見が出て、より良くなると思いました。

○大変良かったと思います

○まちをどのように捉えているのか、いろいろな方のご意見をうかがうことができ、興味深かったです。良い機会になりました。

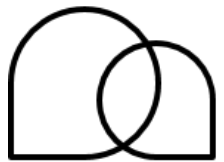
○今回のセッションの内容が、どのように懇談会に住民の声として吸い上げられるのか、進め方がオープンにされると今日参加した一人として取り組みを追っていけるので助かります。

○企画・準備お疲れ様でした。また、貴重な場に参加させていただきありがとうございました。配布された資料の参加者以外の方の参加（傍聴？）が気になりました。お見かけする顔がありましたが、資料には名前がありませんでした。実のワークショップ参加者（区民）の名前は必要ありませんが、その他の方は全て公にした方がよいと思います。第二回目が12月に予定されているとのこと。様々な方々と、お話をしたいと思っています。

○このセッションが基本設計にどう反映されるか、まだわからないので、やや満足を選択しました。発表役をしましたが、短い時間に収めるために、コメントをした方の背景が割愛されるのがもったいなかったです。元中学校の先生やグローバルな職場に勤務する方など、班のメンバー全員が専門性や経験に基づいてコメントしていたものが、まとめることによってその意図や重要さが伝わらないかもしれないと感じました。同席した区の職員の方が、熱心にメモをとってくださっていたので、それが有効活用されたら嬉しいです。最後に、様々な立場の意見を出し合う本取り組み、多数決ではない対話による民主主義を実践しようとする杉並区議会、区職員の方に賛同し、応援します。無作為抽出のお知らせが届いた時に、これニュースでやってたやつだ、ラッキー！と思いました。

○普段知り合うことのないような方々と初対面で同テーマの元ディスカッションできたことはすごく学びになりました。・前述した内容と相反しますが、今回テーマは小学校のことだったので、もう少し子育て世代（20-39歳などの若者層）が多い方が良かったのかなと思います。チームに分ける際も、ある程度属性が同じ方々の方が、より意見が活発化され、具体的内容に落とし込みやすいのではないかと思います。

○①今後開催するテーマ自由型の初回で、セッションの内容、進め方をご説明する予定であるにも拘わらず、それより前に「テーマ指定型第1回」を開催したこと自体がおかしい。内容、進め方を、区民参加者が話し合って決めていくことがまず大切なのに、区が独断で決めている。②セッションニュース#01と参加募集時に、「テーマ指定型第1回」の設定意図を説明していなかったのがおかしい。参加者に、どういう進行なのか、区長は来るのかなど、事前に案内すらしていない。住民参加を促しているはずの区が、住民に受動的な参加しかさせようとしない。③セッションテーマ別「杉一小移転改築の設計について」で出た意見は、改築検討懇談会上げていくというが、それならば、セッションに参加した人に意見を求める前の前提知識として、すでに開催された改築検討懇談会では、当事者である委員が反対を表明していることなどを、まず伝えるべきであった。懇談会とセッションとの連携といつつ、実際には当事者(圧倒的に移転に反対)を置き去りにして進めようとしている。④区の言う「地域住民や卒業生など幅広い方々への参加呼びかけ」は、具体的にどのように行われたのか、特段行わねなかったのか、結局不明。また、実際どれだけの参加があったのか？⑤今回の募集は、一般公募何名、無作為抽出何名中何名参加だったのか？開催にあたり、明らかにすべきだった。⑥セッションの具体的な運営方法について、大きな疑問、違和感がたくさんあった。・24人しか参加者がいないのに、グループに分ける必要があるのか？なぜあの形式のワークショップを選んだのか？・全体進行をされたファシリテーターは、まちづくりや小学校についての専門的な知識や経験をおもちの方ではないようだが、何を基準に区は選考し依頼しているのか？・グループ分けは、何を基準に行われているのか？恣意的に振り分けているのか？・各グループに配置されたファシリテーター及び区職員は、ワークショップのファシリテーターを担えるだけの訓練を受け、経験や知識があるのか？・今回に限って、なぜ自己紹介(住んでいる地域など)がなく、「好きな場所」だったのか？杉一小の関係者なのか、近隣の住民なのか、また教育関係者なのかなど、立場を表明して発言した方がよい。一般的なこと、絵空事、机上の空論を話しても仕方ない。・参加者の予備知識や立場がばらばら、2つのテーマ設定も意図が曖昧、



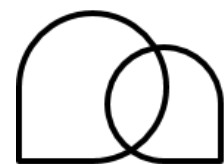
開催後のアンケート2

たがって、何について話し合い、どのように話し合いを深め合いたいのかが不明。発言は一般的、傍観者的、無責任にならざるを得ない。杉一小のことがテーマなのに、杉一小当事者に対して失礼。全体を通して、「ワークショップごっこ」をさせられただけで、ここで出て意見が杉一小改築に何か生かされる回路があるようには思えない。少なくとも、セッションのまとめ、報告、改築検討懇談会への報告内容を、具体的に公表し、セッションがどのように有効であるのかの検証をして、セッションをやることの是非を区民に問うべきだ。⑦参加者のアンケート結果を後日公表するだけでは、決定的に不十分である。何が話し合われ、何が今後の課題・反省点なのか、など、積み重ねてかないのならば、それは「熟議」でも「対話」でもない。それは「ごっこ」と言われてもしかたない。このアンケートに書いた内容に、区が答える場を、まずはもつべきである。それなしに、今後第2回を開催しても、何も発展も深化もない。

○2000字は少なすぎます。今後文字数を増やしてください。書ききれなかったことを追加します。ワークショップについて知識も経験も少ない私は、セッション参加後に、専門家である××××さんに、「行政がワークショップを使うこと」について教えていただき、私が感じたセッションへの違和感の意味、この違和感には合理性があることが分かった。区長はじめ区の担当職員の皆さんにもぜひ読んでいただきたいと思い、最後に、ここに掲載する。

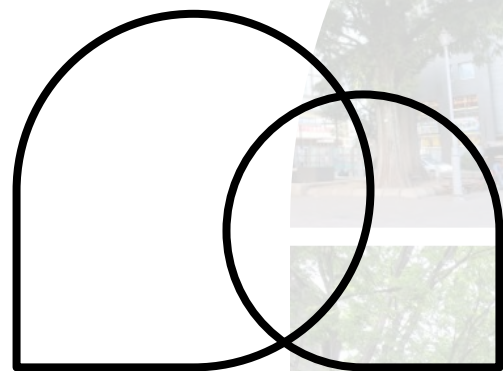
「行政がワークショップを使うことについて」かつて、世田谷のまちづくりセンターの運営委員でもあり、世田谷のまちづくりにワークショップを導入したパイオニアと言っても良い木下勇氏本人が、その著書『ワークショップ～住民主体のまちづくりへの方法論』（2007, 学芸出版社）の中で、「ワークショップが住民の合意形成の免罪符として使われている」（同書 pp.3-4, p.33）と漏らしたように、そうした危機感、実は20世紀末から専門家の中にありました。あれから20年以上もたとうというのに、杉並区で昨今こうした危機感への反省のないままワークショップが行われていることが、ある意味ショックです。そもそもワークショップというのは、「グループワーク論」より成立している手法であり、アウトプットまで、例えば①問題の共有化、②問題のアセスメント、③問題の測定（改善したかがどうかが分かるように数量化すること）、④解決策の選択、といったプロセスを踏むことが前提となっています。そしてさらに、主催者は「ワーカーズ記録」（プロセス記録）を作成して、参加者の一人ひとりが会合の初めから最後までどのように問題を内面化していったか、なぜそのような言動をしたのか、どのようにして気付きに至ったか、などを詳細に記述していかななくてはならないものなのです。まずもって、このようなプロセスを踏まなければ、単なる「もどき」や「ごっこ」であって、子どものまねごとにすぎません。また、グループワークは短絡的に合意形成の場に使ってよいものではありません。もし使うとしても、例えばジェイムズ・S・フィッシュキンがその著書（訳本『人々の声が響き合うとき～熟議空間と民主主義』, 2011, 早川書房）で提案しているように、訓練を受けたモデレーター（ファシリテーターとは違います）が、賛成派・反対派のそれぞれの立場から参加者に何度も学習させ、その上でグループワークさせるといった何段階ものプロセスが用意されるべきものです。気心の知れた仲間や、これから仲間になろうとする者同士が余興として行うゲームの一環として、グループワークを使うのは勝手ですが、都市計画や公共施策を決めるアリーナの中で「ごっこ」をするのは厳に慎むべき行為です。例えば先日の日曜日に行われた「あさがやまちづくりセッション」では、集まった区民は人によって認識の熟度に大きな差があったと私は感じましたが、そのままではよかったのでしょうか？ また、訓練された都市計画分野のモデレーターが不在だったように感じました。

主催者の誰かによって「ワーカーズ記録」は記述されたのでしょうか？ そもそも参加者は何らかの「問題共有」に到達したのでしょうか？ 何年もこの問題に取り組んでいる区民と、落下傘のようにやってきて参加する区民とでは話がかみ合いませんので、それぞれの問題点について肯定側と否定側のそれぞれから資料を出して何度も学習会を重ねたうえで、ワークショップすべきだろうと思います。その学習会が「あさがやまちづくりセッション」かと少し期待していましたが、残念でした。私が杉並区民としてのシビックプライドをかけて言っているのみならず、そのように熟議したうえでの小学校にしなければ「区内で一番伝統のある小学校」にはならないと思うからです。



配布資料

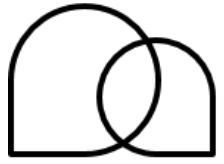
※投影した資料から主なページのみ
抜粋してまとめています。



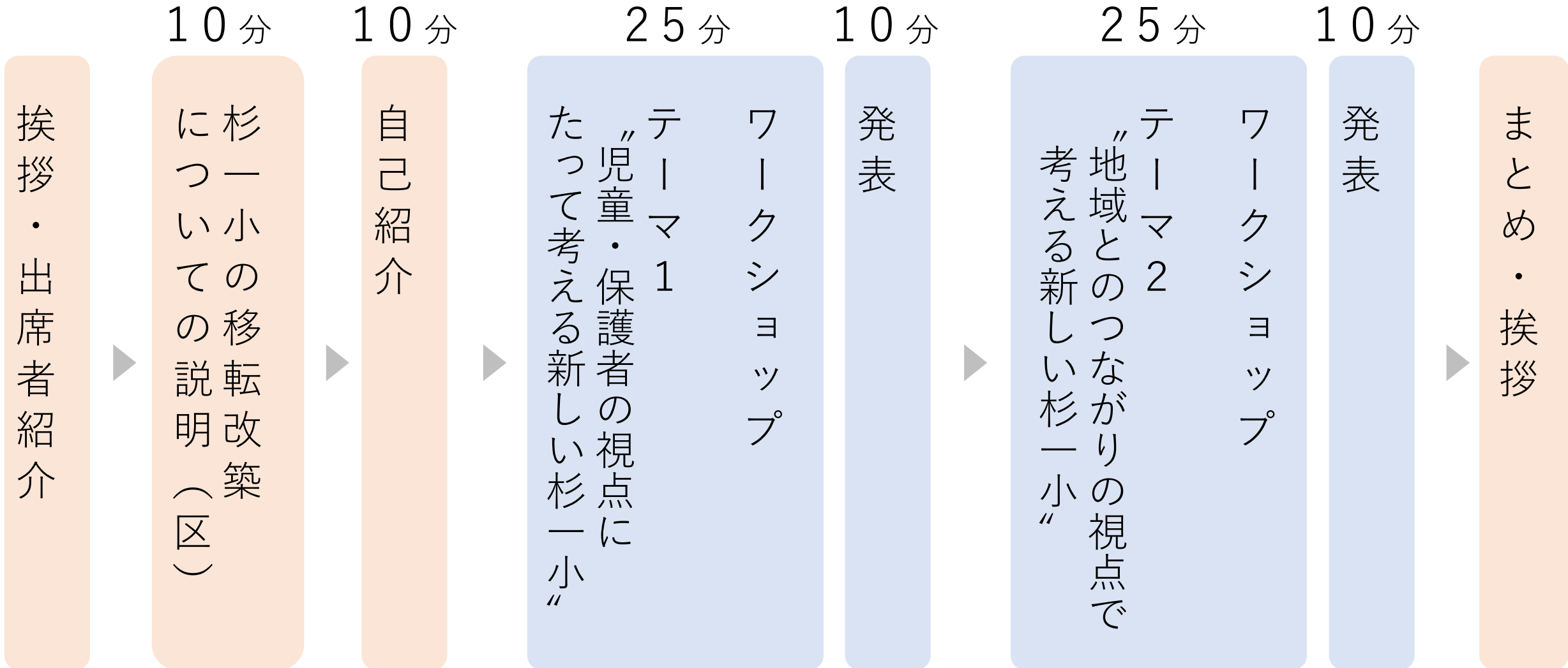
あ さ が や
ま ち づ く り
セ ツ シ ョ ン

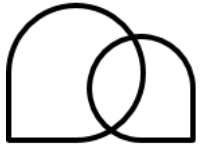
第1回

令和6年6月9日（日） 14時～16時



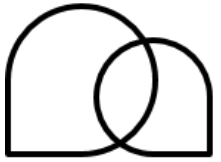
本日の流れ





注意事項等

- ▶ 当日の様子は区が撮影し、区公式ホームページ、SNS等に掲載することや、報告書等で活用することがあります。
- ▶ 当日の内容や配布資料は、後日区公式ホームページで公表を予定しています。
- ▶ 施設内は禁煙です。
- ▶ テーブルの人数に偏りが出た場合、班を移動させていただく場合がございます。



あさがやまちづくりセッションとは？

地域の皆さんが、普段、阿佐谷で生活している際に感じる「もっとこうなったら良いのに」は、人によって様々だと思います。

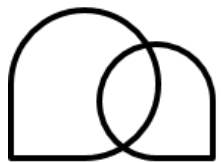
こうした様々な方の思いを汲み取り、阿佐谷のまちの課題や将来像について話し合い、共有・協働する場です。

【テーマ自由型】

話し合うテーマを区民の皆様とのワークショップで決めていきます。

【テーマ指定型】

杉並区から、行政課題の検討などに向けて、話し合うテーマを指定します。



本日の出席者

タカグチ ヒロト
高口 洋人 学識経験者・早稲田大学教授

シバタ マサミツ
柴田 真光 司会

コバヤシ コウジ
小林 幸司 ファシリテーター・杉並建築会

ハヤシ ミキ
林 美樹 ファシリテーター・杉並建築会

トシミツ オサム
利光 収 ファシリテーター・杉並建築会

ヤマダ キヨシ
山田 清 ファシリテーター・杉並建築会

ノグチ カズキ
野口 知希 杉並区都市整備部
まちづくり担当部長

グンジ ヨウスケ
郡司 洋介 拠点整備担当課長

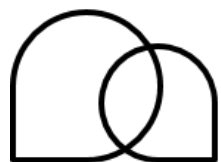
アマノ マサシ
天野 雅史 係長

オニザワ カツヤ
鬼澤 勝也 担当

タカヤマ ヤスシ
高山 靖 杉並区教育委員会事務局
学校整備・支援担当部長

ヤスカワ タカヒロ
安川 卓弘 学校整備課長

オカモト トモヒコ
岡本 智彦 係長



本日の流れ

02
<再掲>

10分

挨拶・出席者紹介

10分

杉一小移転改築
について
の説明
(区)

25分

ワークショップ
テーマ1
“児童・保護者の視点に
たって考える新しい杉一小”

10分

発表

25分

ワークショップ
テーマ2
“地域とのつながりの視点で
考える新しい杉一小”

10分

発表

まとめ・挨拶

- 1 杉一小移転改築の概要
- 2 杉一小の歩み・特色
- 3 これからの学校づくり・事例
- 4 今後の進め方

杉並第一小学校は、土地区画整理事業等により周辺の道路整備を行った上で、移転後の総合病院跡地に移転・改築します。

< 従 前 >

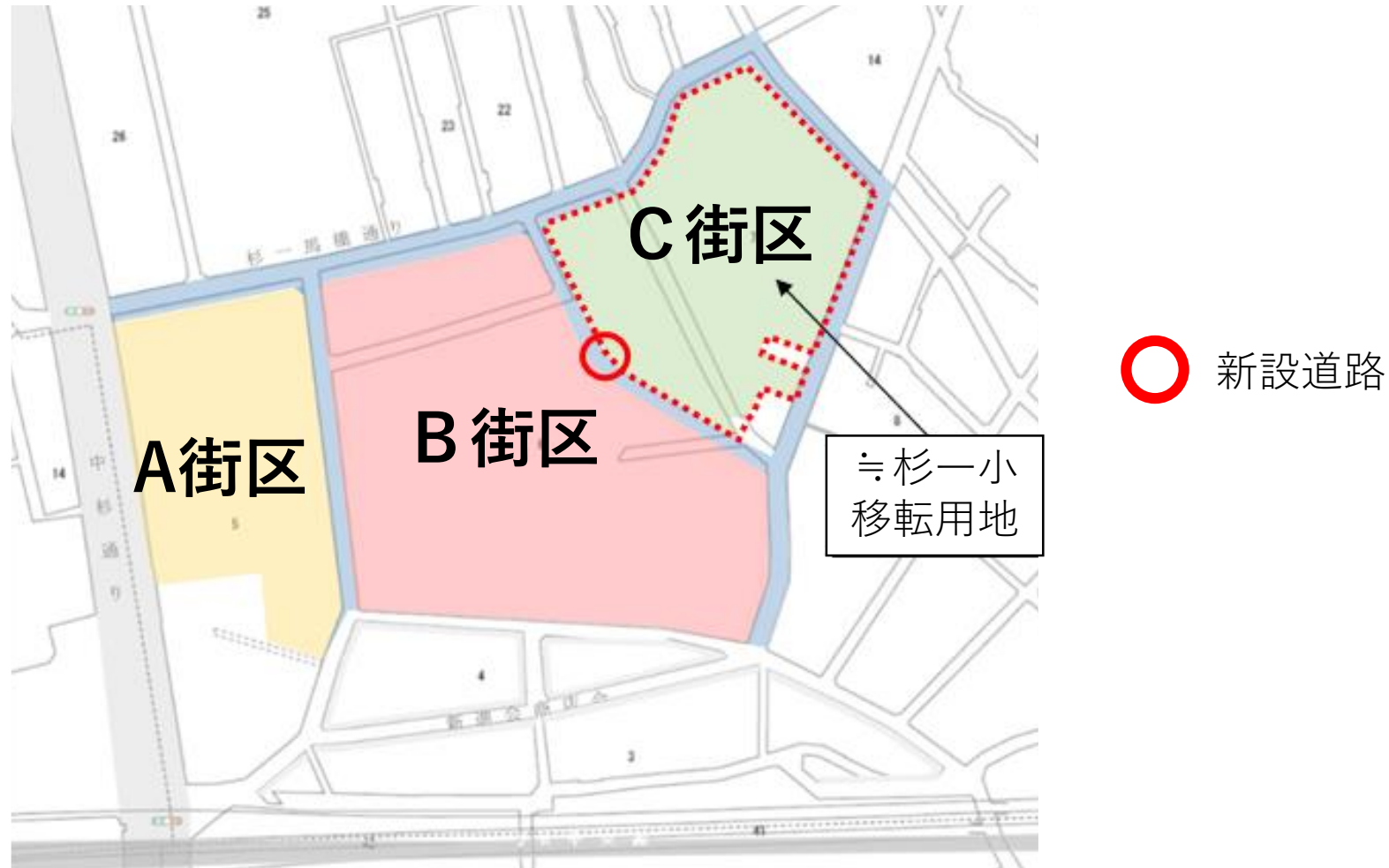


— 土地区画整理事業区域

× 廃止道路

杉並第一小学校は、土地区画整理事業等により周辺の道路整備を行った上で、移転後の総合病院跡地に移転・改築します。

＜土地区画整理事業による土地の区画形質の変更後＞



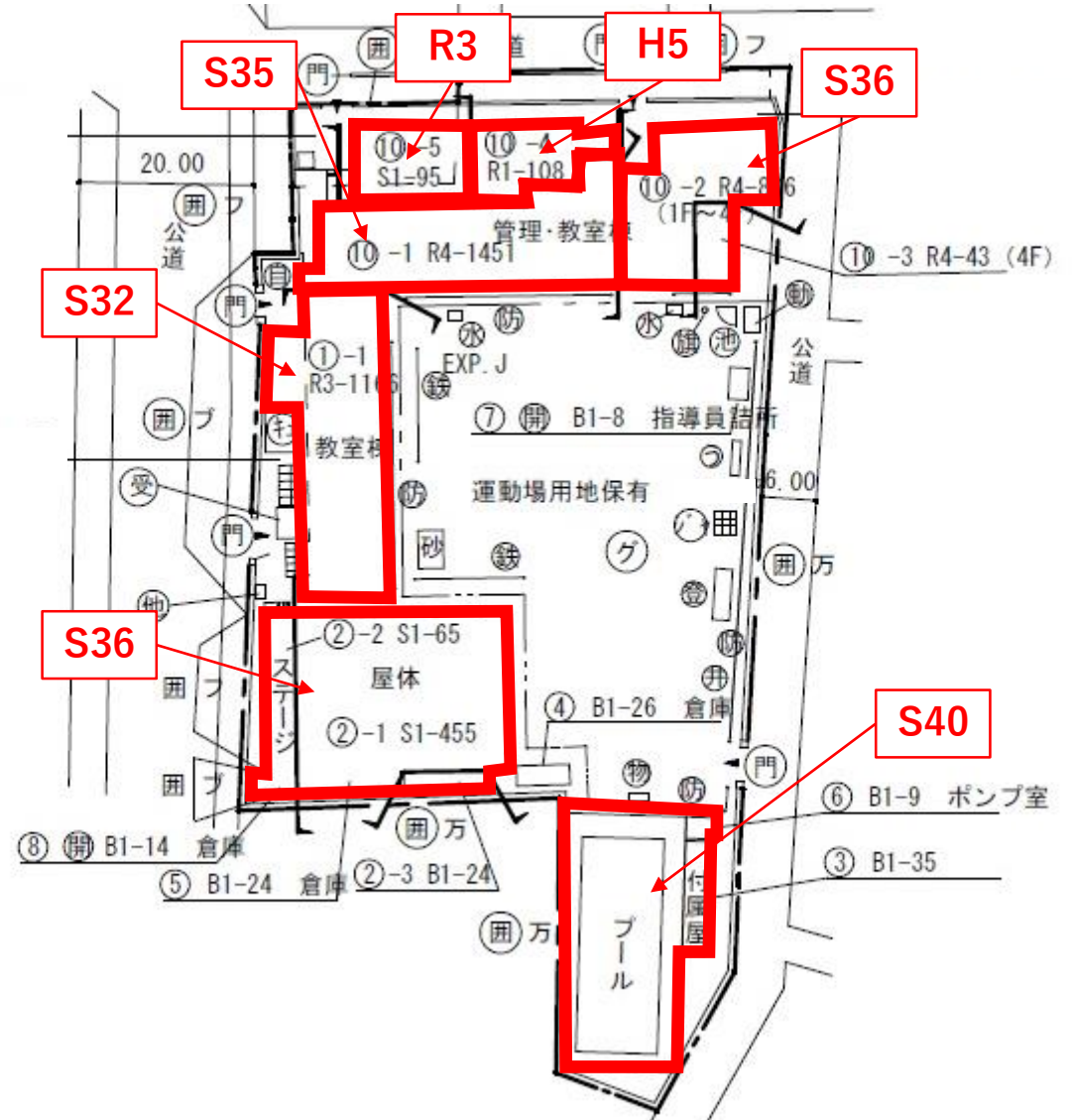


<沿革>

明治8年	公立桃園学校第一番分校 として開校
昭和22年	杉並区立杉並第一小学校と改称
昭和32年	西校舎完成
昭和36年	北校舎・体育館完成
昭和40年	プール完成
平成23年	校舎耐震補強工事完了
令和3年	給食室減増築工事

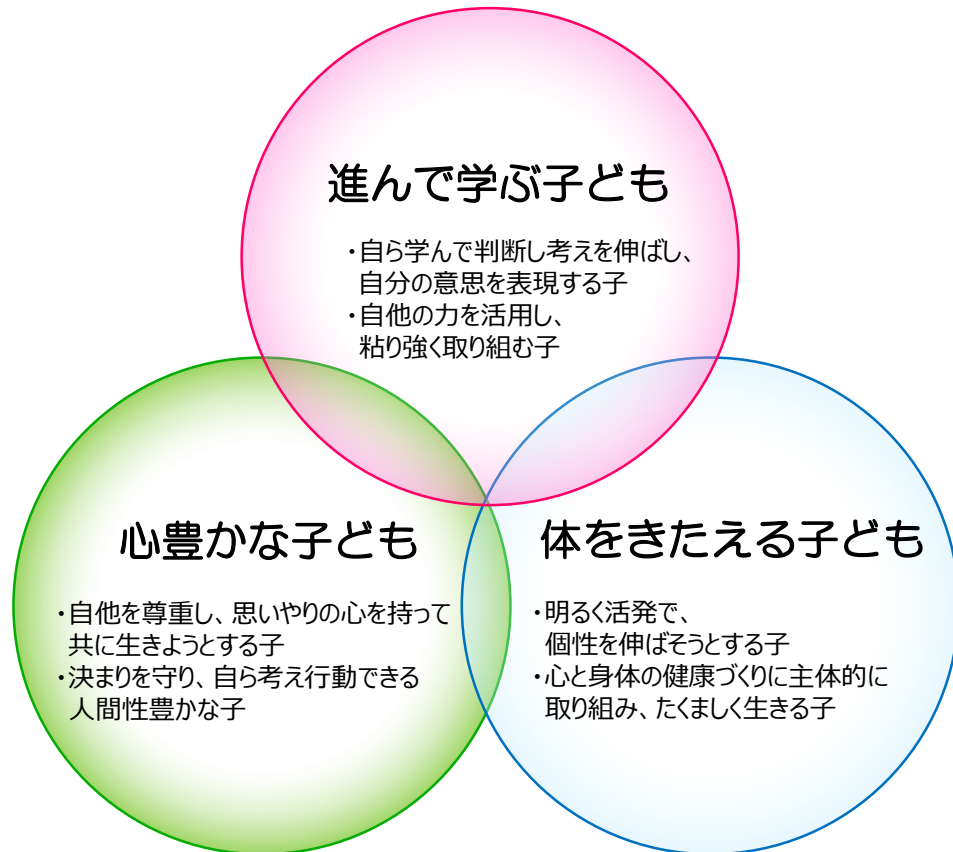
<現在の校舎規模等>

	敷地面積	校舎面積	運動場面積 (有効)	体育館面積	プール
杉一小	5,805㎡	3,788㎡	約1,800㎡	544㎡	25m×10.5m
区内小学校 平均	9,345㎡	5,520㎡	約4,300㎡	745㎡	—



オンリー1があふれている学校

教育目標と目指す児童像



・ 創立149年の伝統をもつ
区内最初の公立小学校

・ 朝先生やすぎっ子くらぶ等
地域の方の協力のもと
オンリー1の教育活動を
推し進めている学校

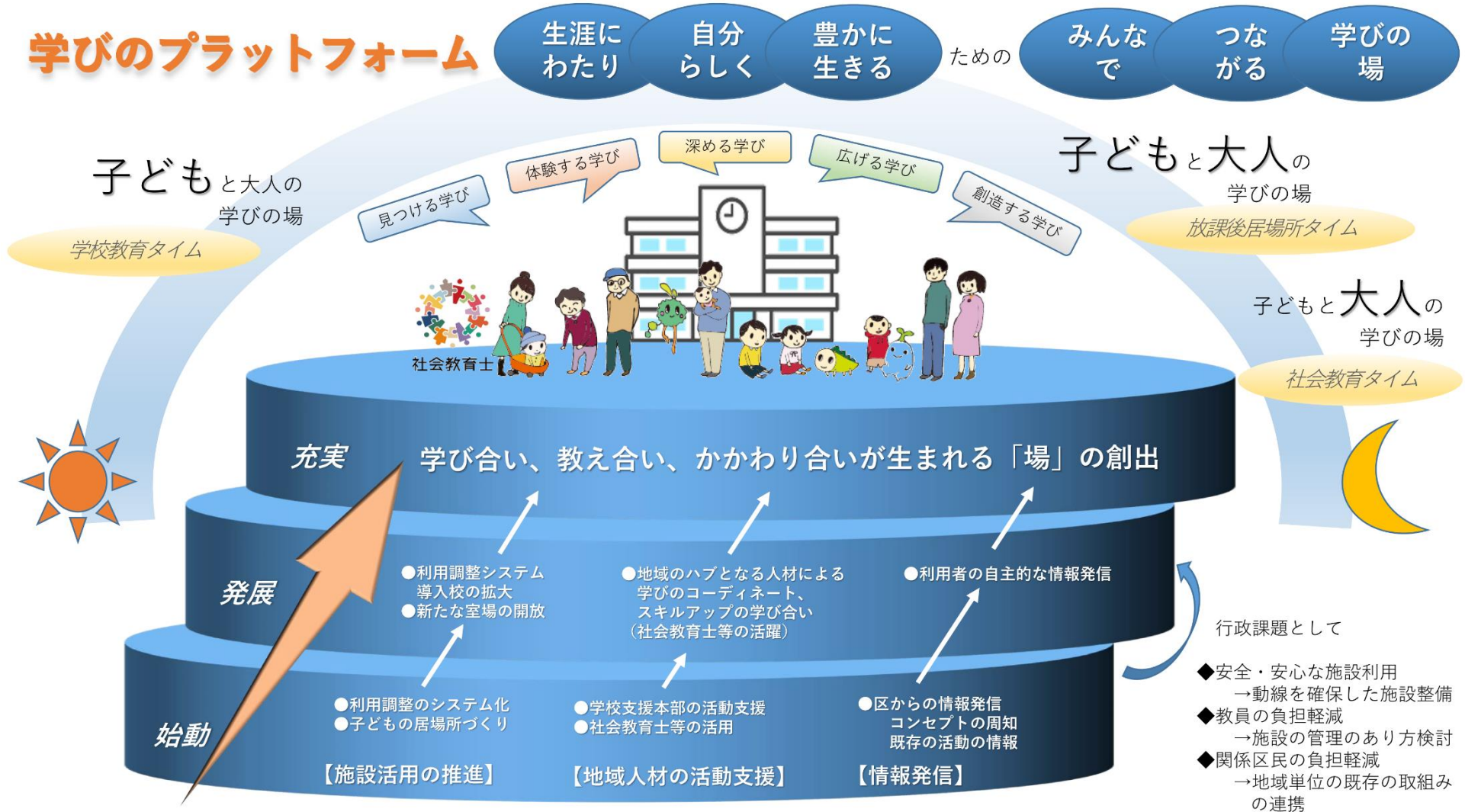
・ 杉一野球クラブとジュニア
バンドは保護者や外部講師
で運営。
ジュニアバンドは、ジャズ
ストリートでも演奏。

杉並区教育ビジョン2022推進計画（抜粋）

- 基本方針3 学び合いと教え合いが広がる教育環境の整備・充実を図ります

「人生100年時代」を自分らしくいきいきと生きるためには、誰もが学び続けられ、必要に応じて学び直すことができる環境を、身近な地域に整える必要があります。そのためには、**学校や図書館等の教育施設を、区民が生涯にわたって豊かに学ぶことができる施設とするとともに、人が交わりつながる基盤となる「学びのプラットフォーム※」として整備することにより、学び合いと教え合いが広がる教育環境の整備・充実を図ります。**

学びのプラットフォーム イメージ



学校施設の目指すべき姿

※『杉並区立学校施設整備計画』 抜粋

【将来を見据えた教育環境の確保】

- 安全・安心で、快適に過ごせる学習・生活空間の整備

地震等の自然災害に対する安全性の確保、施設のバリアフリー対応 等

- 多様な教育に対応できる学習環境の整備

少人数教室の整備、多目的スペースの整備、特別支援教室の整備 等

- 地域の拠点となる開かれた学校づくり

開放諸室（会議室、体育館、校庭利用）の整備、防災拠点の機能強化、学童クラブ、地域図書館、コミュニティふらっと等との複合化への取組 等

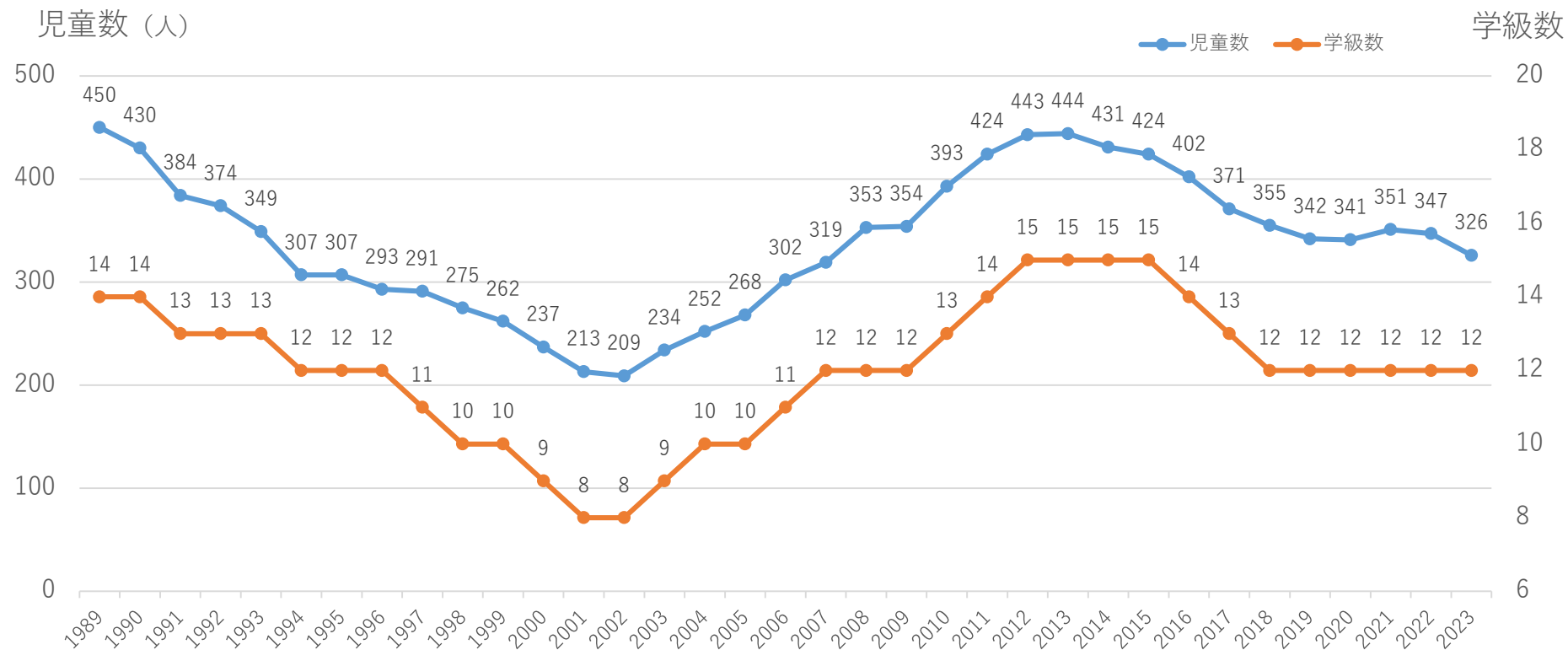
- 将来転用可能な柔軟性のある施設づくり

社会情勢や施設需要の変化に応じた柔軟性のある施設づくりの推進 等

- 環境に優しい施設づくり

太陽光発電（再生可能エネルギー）、建物の断熱化やLED照明の採用 等

<児童数・学級数の推移> ※平成以降

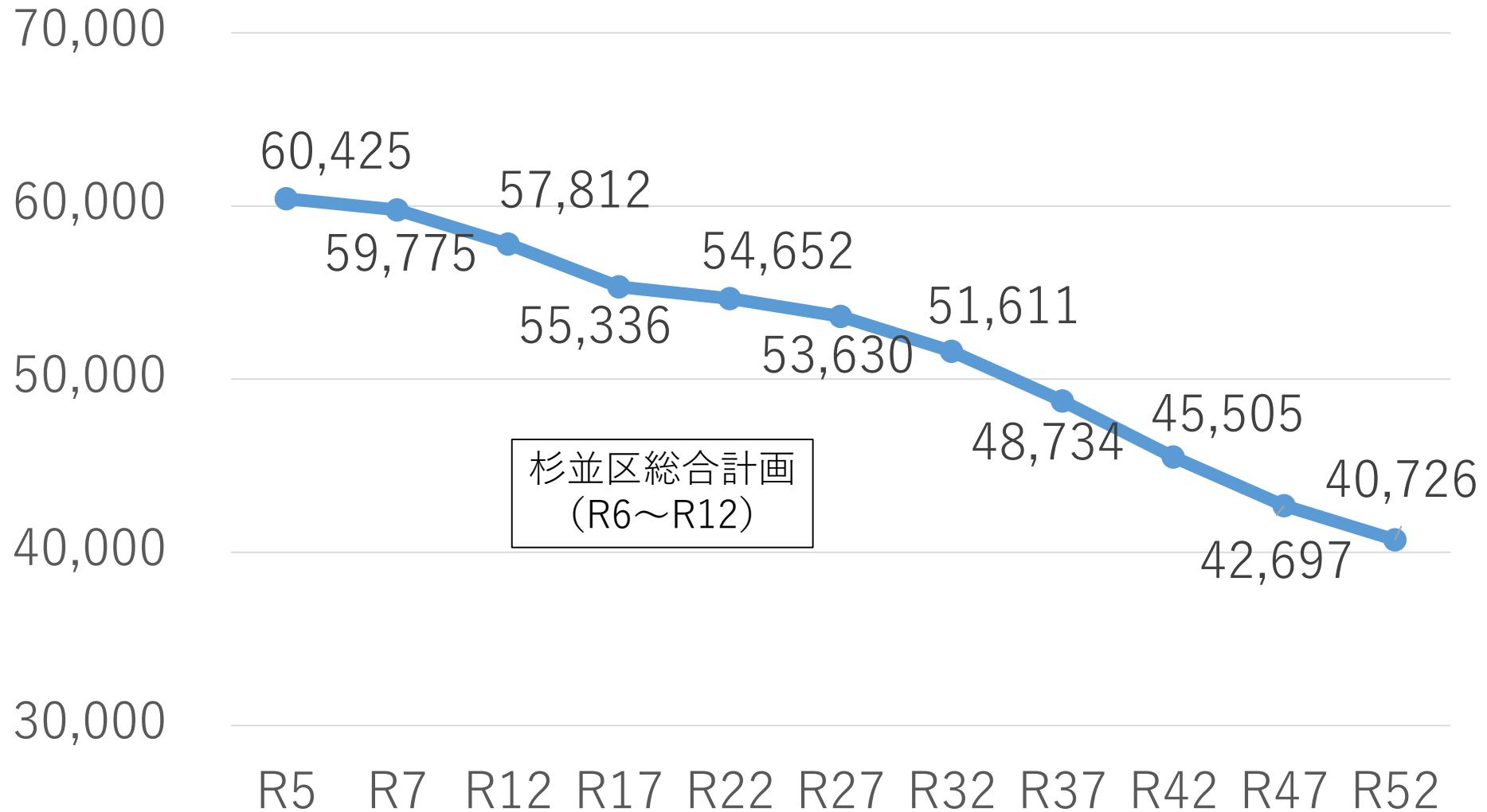


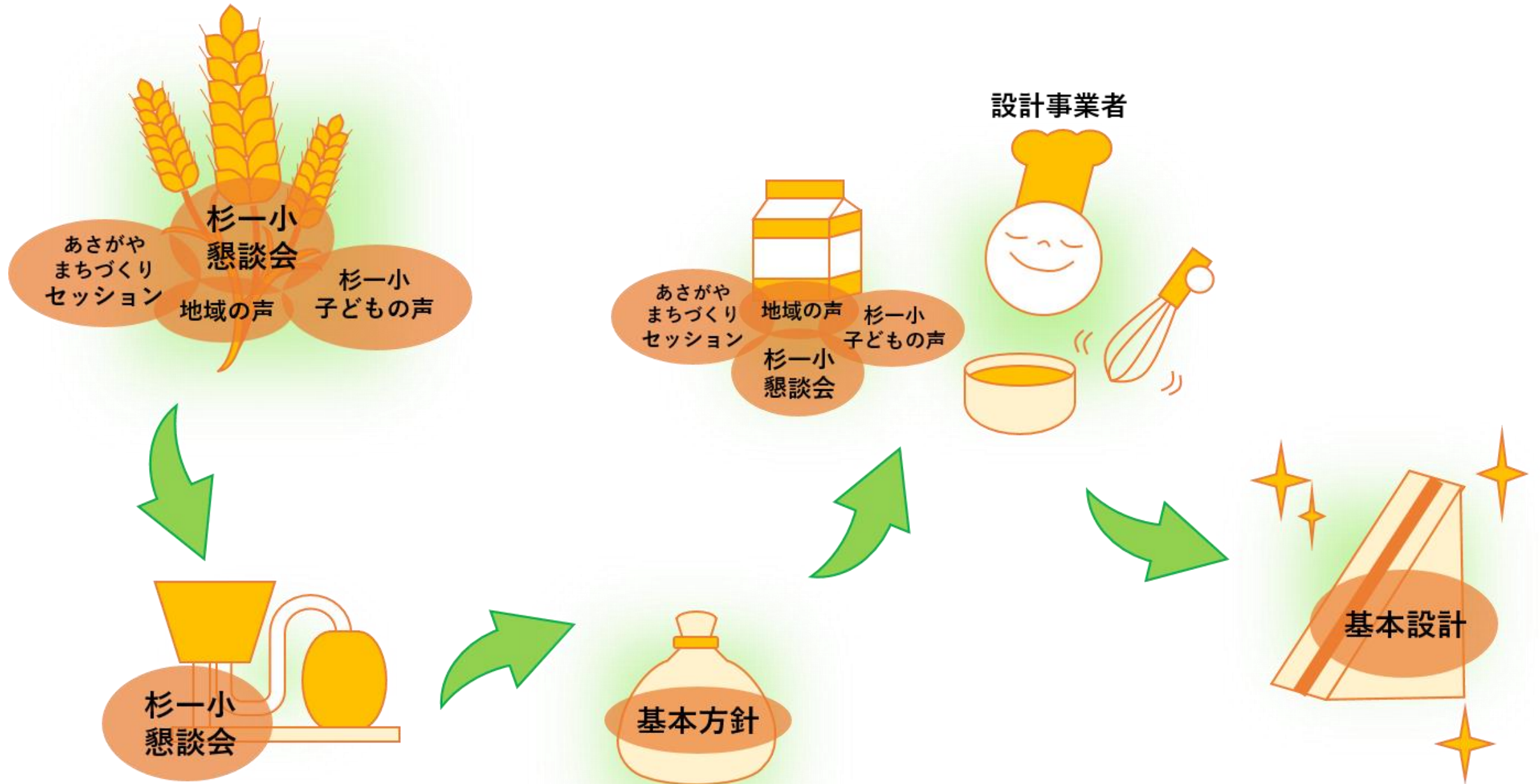
<今後の児童数・学級数の見込み>

[令和5年11月時点見込み]

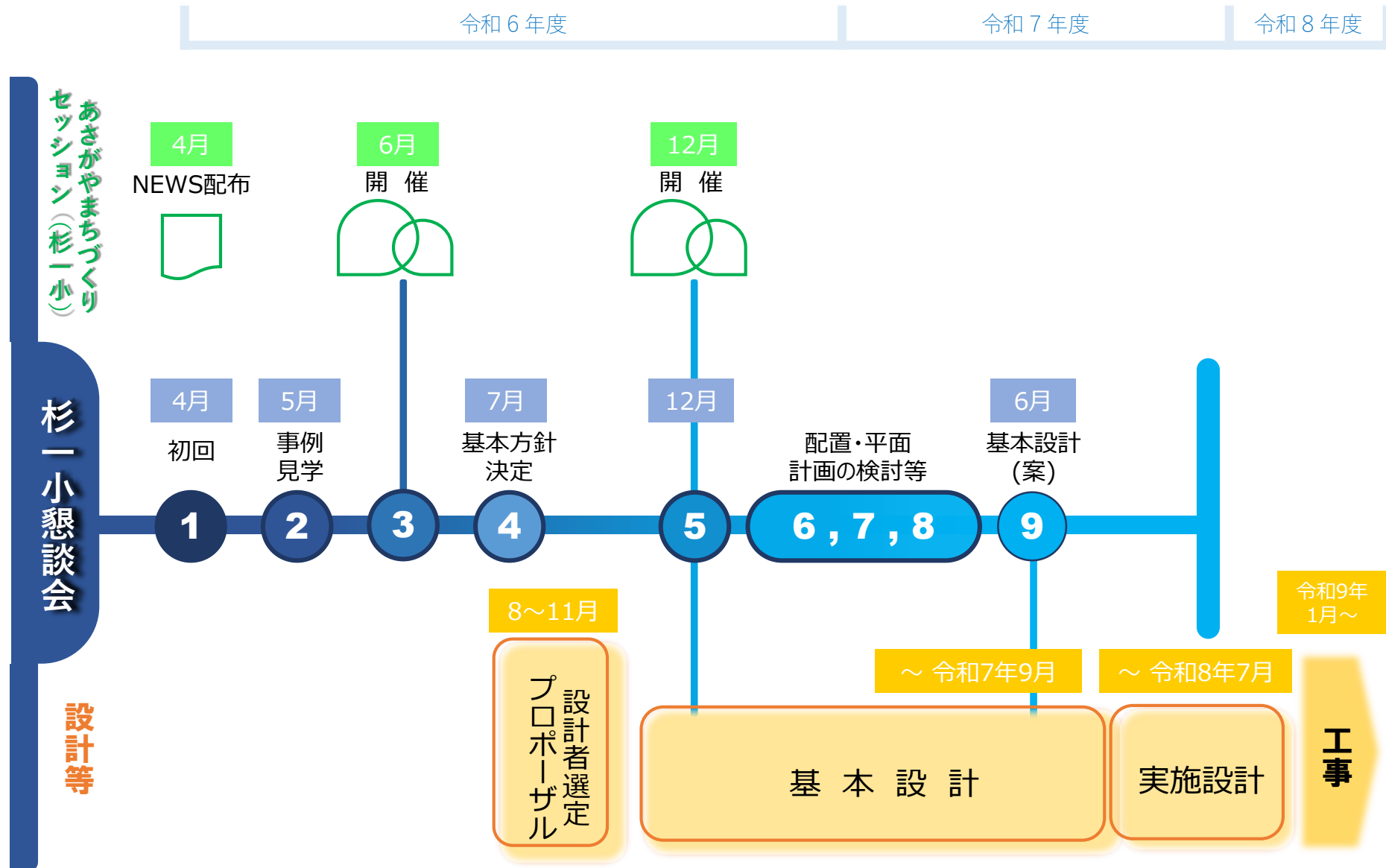
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
児童数	302	305	299	292	285
学級数	12	12	12	12	12

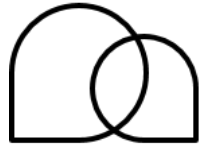
杉並区年少人口推移(将来人口推計)





※現時点の予定

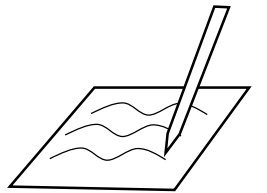




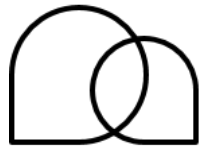
ワークショップのルール

Point 1 相手の声、自分の声をよく聴こう

Point 2 お互いの違いを楽しんで、学ぼう



思いついたアイデアは、付箋に書いてから発表していただくようお願いします。



自己紹介タイム

各テーブル一人ずつ自己紹介

時間：一人一分程度

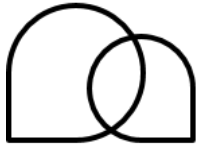
①名前

②私の好きな阿佐谷

〈好きな場所・お店など〉

このお店の〇〇が
とても美味しくて…など

紹介が終わったら拍手をしましょう。



ワークショップ

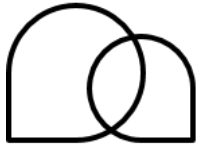
テーマ1：児童・保護者の視点にたって考える新しい杉一小

ワークショップ時間：25分

初めに、一分程度で、思いついたアイデアなどを**付箋**に書いたうえで、始めてください。

名札に**赤**色のシールが貼ってある方へ

ワークショップ後に、各テーブルで出たアイデアの発表をお願いします。



ワークショップ

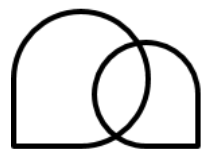
テーマ2：地域とのつながりの視点で考える新しい杉一小

ワークショップ時間：25分

初めに、一分程度で、思いついたアイデアなどを**付箋**に書いたうえで、始めてください。

名札に**青**色のシールが貼ってある方へ

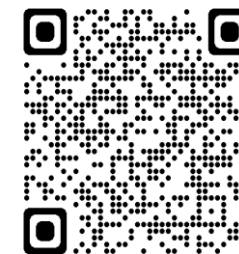
ワークショップ後に、各テーブルで出たアイデアの発表をお願いします。



今後の取組の案内・アンケートのお願い

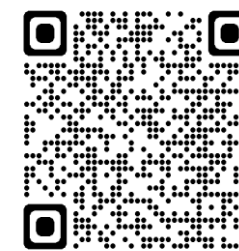
杉並第一小学校の移転改築について

杉並区公式ホームページ＞杉並区教育委員会＞学校の改築・改修、新しい学校づくり＞杉並第一小学校の改築



あさがやまちづくりセッションについて

杉並区公式ホームページ＞くらしのガイド＞まちづくり＞まちづくり＞阿佐ヶ谷駅周辺地域に関する取り組み



本日のアンケートについて

* 6月16日までご記入いただけます。

